

栃木県森林審議会議事録

1 開催日時

令和 8（2026）年 7 月 24 日（金） 13：30～15：00

2 開催場所

栃木県公館 大会議室

3 審議会委員数

11 名

4 出席者の氏名

〔出席委員〕

青木 克明	荒井 敦子	石井 綾	金子 直樹	齋藤 正
佐藤 和之	武田 純子	東泉 清寿	橋本 昭子	松英 恵吾
見形 和久				

〔栃木県〕

環境森林部長	岡本 栄二
環境森林部次長兼環境森林政策課長	長野 辰男
環境森林部次長	大金 重秀
環境森林政策課主幹兼課長補佐（総括）	桧山 忠幸
環境森林政策課環境立県戦略室長	今井 博代
自然環境課長	高嶋 英機
林業木材産業課長	大山 剛
森林整備課長	川上 晴代

〔事務局〕

森林整備課課長補佐（森林保全担当 GL） 黒田 浩平 外 7 名

5 議事

- (1) 次期渡良瀬川地域森林計画の策定等について
- (2) その他

6 議事の概要

- ・事務局から、14名の委員のうち11名が出席し、定足数である過半数を満たしている旨を報告
- ・開会にあたり、岡本環境森林部長が挨拶
- ・松英会長が議事を進行

〔議事〕

(1) 次期渡良瀬川地域森林計画の策定等について

- ・配布資料に基づき、川上森林整備課長が説明

【松英会長】

ただいまの説明について、委員の方々から御意見、御質問をお受けする。

【東泉委員】

資料P8の「獣害対策に適応した主伐の促進」とは具体的にどのようなものか説明願う。

【川上森林整備課長】

獣害が多い地域は、皆伐、再造林をしても獣害対策にコストがかかり、忌避剤等を施しても被害を防ぐことが困難である。

このような現状を踏まえ、とちぎ森林創生ビジョンに記載しているとおり、伐採率30%の搬出間伐の継続、促進とともに、強度間伐の効果等を検証の上、導入を検討して参りたい。

【東泉委員】

県の獣害対策費用は約3億円と聞いたが、その財源及び県が把握しているシカの個体数について説明願う。

【大山林業木材産業課長】

獣害対策の財源は主に国庫補助金の造林事業費であり、県民税も併せて活用している。

県としても、獣害対策経費の低コスト化は課題であると認識しており、特定苗木の導入や、植栽本数を減らすことにより、再造林や獣害対策に関わる労働力や資材費の縮減が可能ではないかと考えている。

県西地域はシカの生息密度が高く、植栽をすれば苗木の獣害対策は欠かせない状況であるが、一方で、成熟して更新時期を迎えている森林の若返りを進める必要がある。

県では令和3年から、強度間伐実施後、部分的に再造林を行うことや、天然更新により森林の若返りを図る等、新たな伐採方法の検証を行っており、その効果を確認の上、現場への適用を検討して参りたい。

【高嶋自然環境課長】

シカの生息数について、令和元年度は約36,000頭であったが、令和4年度は28,000頭まで減少した。

令和 10 年度末時点の生息数を 11,800 頭とする目標を立て、年間捕獲頭数の目標を 11,500 頭に設定しており、令和 7 年度は 11,900 頭捕獲し、目標を達成している。

【東泉委員】

300 万円をかけて 1 ヘクタールのシカ対策柵を設置しても、2、3 年すると使えなくなってしまい、また柵を設置することを繰り返している。個体数が減るまでは、間伐の方法を変える等、大胆な獣害対策を行うべきだと考える。

また、獣害対策費用 3 億円のうち 1 億円を獣害対策に使い、残り 2 億円を間伐補助金の増額に使う等、個体数を減らす対策と並行して、獣害対策費用の使途を検討し、県民税を有効活用すべきである。

【松英会長】

植栽本数を含め、育林体系の総合的な見直し等様々な対策について議論が必要と考える。

【齋藤委員】

以下 3 点、意見を申し上げる。

- ①最新技術を活用した獣害対策の研究を進めていただきたい。
- ②特定苗木について、4、50 年後には再度花粉が発生してしまう可能性があるため、植栽後の適正な伐期を設定し、森林資源の循環を推進していただきたい。
- ③適正な間伐においては、間伐の上限の見直し等、運用しやすいように設定する必要があると考える。

【川上森林整備課長】

現在の計画における伐期や間伐の時期、植栽本数は、今までの林業経営の経験を反映し設定している。

次期計画に新たな伐期等を反映させることは困難であるが、現在の植栽本数や新しい苗木等のデータを収集し根拠を示した上で、今後の計画に反映させることを検討して参りたい。

【齋藤委員】

川上課長の意見のとおりでよいと考える。今後、運用について検討していただきたい。

【高嶋自然環境課長】

獣害対策について、捕獲通報装置を使用するための通信網の整備や、ドローンによりシカの居場所を特定し捕獲罠を設置する等を行っており、このような新たな技術を積極的に導入しながら、捕獲効率の向上を図っていきたい。

【見形委員】

獣害対策について、土木部局や農政部局とも連携し、移動経路の遮断等を講じる必要があると考える。

【高嶋自然環境課長】

県土整備部、農政部と連携しながら、環境整備や移動経路の遮断等の対策を行

って参りたい。

【東泉委員】

以下2点、意見を申し上げる。

- ①深刻化しているヤマビル被害について、対策を講じる必要がある。
- ②ドイツの事例のように、地域に応じたゾーニングを栃木県が先行して行うべきと考える。

【岡本環境森林部長】

獣害対策と併せて、ヤマビル対策を講じて参りたい。

ゾーニングについては御意見として伺い、今後の施策の参考にして参りたい。

【松英会長】

民有林の計画を策定する際に、国有林や周辺の農地、集落、土地利用のデータを踏まえて森林のゾーニングを考えることを研究レベルで行っている。参考までに情報提供させていただく。

(2) その他

【松英会長】

事務局から何かあるか

【事務局】

次回の森林審議会は令和8（2026）年11月16日（月）13：30から開催を予定しているため、御了知願う。

【松英会長】

委員から何かあるか。

（特になし）

- ・ 岡本環境森林部長がお礼の挨拶
- ・ 閉会